

両沼地方稲作情報 第4号

令和6年6月6日
令和6年6月17日更新

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A 会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

QRコード

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36243a/bangehukyu-9.html>

○生育ステージに応じた水管理をしましょう。

○土壌の異常還元（ガス湧き）による障害に注意しましょう。

1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（06/13~07/14））

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温について、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%、3~4週目は、高い確率50%です。降水量は、平年並の確率40%です。

2 初期生育

草丈は平年よりも短く、茎数及び葉色は平年並から少ない傾向があります。

表1: 水稲作柄解析試験データ(会津地域研究所6/4時点) ※移植日: 5/21、栽植本数: 20.8株/m²(30cm×16cm)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	主稈出葉(葉)	葉色(SPAD値)
コシヒカリ	本年	25.9	123	5.6	27.9
	前年	30.4	149	5.8	30.6
	平年比/差	94%	88%	-0.1	-2.0
ひとめぼれ	本年	24.1	147	5.5	28.8
	前年	27.8	158	5.9	31.9
	平年比/差	96%	99%	-0.3	-2.9
天のつぶ	本年	26.5	125	5.5	29.3
	前年	31.5	154	5.7	32.8
	平年比/差	94%	86%	0	-2.7

3 水管理(分けつ期~幼穂形成期)

(1) 分けつ期

・浅水管理で分けつを促進させ、必要茎数を確保しましょう。

(2) 中干し(有効分けつ決定期~幼穂形成期前)

- ・必要茎数（目安：コシヒカリ20本/株、ひとめぼれ25本/株、天のつぶ20~22本/株）を確保したら中干しを行い、無効分けつ発生を抑制しましょう。
- ・幼穂形成期前（出穂期25から21日前）までには終了しましょう。
- ・水不足ほ場では無理に中干しせず、用水の確保状況に応じて水管理しましょう。

(3) 幼穂形成期

- ・間断灌漑により根圏環境の改善に努めましょう。
- ・低温（平均気温20℃以下、または最低気温17℃以下）が想定される場合は、深水管理（水深10cm程度、幼穂が水に隠れるように）にして、幼穂を低温から保護しましょう。

今からできる倒伏対策

◇土壌の異常還元（ガス湧き）を解消し根傷みを防止

土壌の異常還元は根傷みを引き起こし、長引くと節間の充実不足や根張り不良となり、登熟期の倒伏要因のひとつになります。生育に影響がある場合は、一時的に落水してガスを抜き、根圏環境を改善しましょう。また、中干しを適期・適切に実施しましょう。

◇ケイ酸カリ等資材施用により丈夫な稲体を確保

稲はケイ酸やカリを吸収することで、根張りが良く丈夫な稲体になり、耐倒しにくくなります。また、受光態勢が改善され光合成能力が向上します。ケイ酸・カリの吸収は幼穂形成期以降から旺盛になるため、その直前（出穂40日前頃）の施用が効果的です。

4 病害虫対策

(1) いもち病

- ・会津地方における葉いもちの初発は6月下旬頃です。
- ・いもち病は、夏季の低温、多雨、日照不足で発生しやすくなります。
- ・窒素過多で過繁茂のほ場では、多発する可能性があります。
- ・ほ場内に葉いもちの発生を確認した場合、速やかに散布剤（液剤・粉剤）で防除してください。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用していない場合、水面施用剤（粒剤）等で防除してください。

(2) イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ

- ・主に葉を加害し、白色の加害痕を残します。
- ・被害が大きいと生育不良や分げつ抑制による減収の可能性あります。
- ・田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用しておらず、発生が多い場合は水面施用剤（粒剤）等で防除してください。



図1:イネドロオウムシ(幼虫)による食害



図2:イネミズゾウムシ(成虫)

5 穂肥

- ・基肥一発肥料を使用している場合、極端に葉色が低下しているほ場を除き、穂肥は必要ありません。
- ・出穂25日前の生育を確認し、草丈が長く葉色が濃いほ場は、穂肥の量を減らすか、施肥時期を少し遅らせましょう。
- ・ひとめぼれ、天のつぶは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。
- ・コシヒカリは倒伏しやすいため、施肥時期を遅くして、出穂15日前にチッソ成分1.5~2kg/10aを基本とします。

○農薬はラベル等を確認し、適正に使用しましょう。

○今年も節水に御協力お願いします。

○今年も高温が予想されます。作業中はしっかり水分補給し、熱中症に注意してください。

○農業保険（収入保険、水稻共済等）に加入しましょう。



↑ 葉いもちの感染好適日の判定システム(BLASTAM)はこちら

「福島県」+「プラスタム」で検索!